

あした
選挙
行く？

第5号

令和6年執行の東京都知事選挙・衆議院議員選挙の結果（杉並区）について

令和6年は東京都知事選挙と衆議院議員選挙が行われました。
投票率が中々伸び悩む中、都知事選挙・衆議院議員選挙では
両選挙とも60%前後の投票率と比較的高い投票率でした。

しかしその比較的高い投票率の中でも特に20代の投票率は低くなっています。
18歳、19歳の時は半分近くの人が投票していますが20代になると
投票にいかなくなってしまう人が増えています。

18歳、19歳、20歳と年齢を重ねるごとに社会との関わりはどんどん増えてくる。

政治家が言っていることについて最初はよくわからないこともあったかもしれない。
でもだんだん自分の身近な事柄になってくる。

こんな社会になってほしい、あんな社会になってほしい。
小さいことも大きいことも自分の中にきっとあるはず。

そんな気持ちに気がついたら、選挙に行こう。

あなたの1票で思いを届けよう。

その気持ちを、1票に。

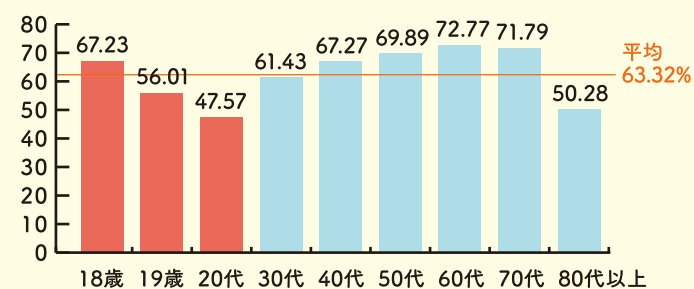
次の選挙で届けよう、若者の思い。



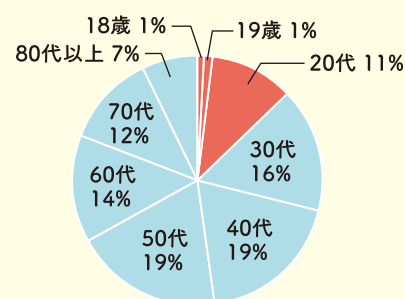
令和6年東京都知事選挙・衆議院議員選挙のデータ（杉並区）

◆年代別投票率

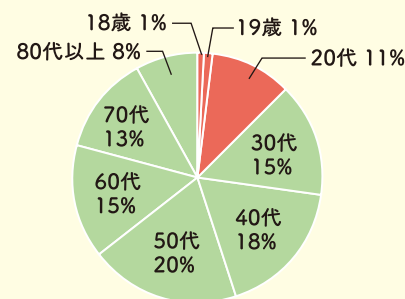
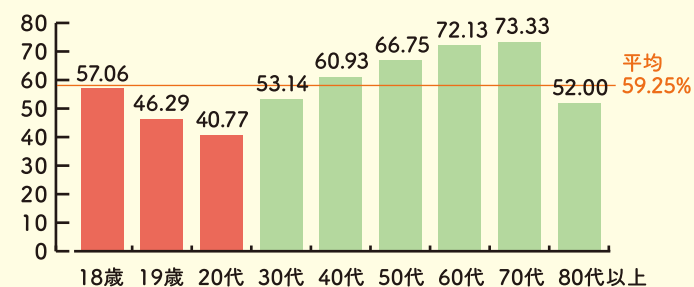
令和6年東京都知事選挙



◆すべての投票者数に占める年代別投票者数の割合



令和6年衆議院議員選挙



SPECIAL INTERVIEW

選挙も語れる ラッパー ナンデス

帰国子女でラップを活動の軸に据えながら、
政治や社会に関しても積極的に発信を続ける
ダースレイダーさん。

異色の経歴を歩んできたダースレイダーさんに、
選挙を中心に考えることや行動することの大切さについて
話を伺いました。

ダースレイダー

DARTHREIDER

ラッパー／MC。1977年パリで生まれ、幼少期を
ロンドンで過ごす。東京大学に入学するもラップ活動
に傾倒し中退、2000年に本格デビュー。2010年、イベン
トのMCの間に脳梗塞で倒れ、さらに合併症で左目を失明す
るも、その後は眼帯をトレードマークに復帰。2017年「このま
ま手を打たなければ5年で死ぬ可能性がある」と宣告されたこと
を歌った「5years」が話題となる。選挙については、お笑い芸
人・ブチ鹿島と毎週金曜にYouTubeで生配信する番組『ヒルカ
ラナンデス』で取り上げることが多く、共同で監督・主演した
ドキュメンタリー映画『劇場版 センキョナンデス』『シン・
ちむどんどん』がヒットしたことも記憶に新しい。な

お、『あした選挙行く?』第4号でインタビュー
した畠山理仁氏のことを『選挙漫遊の
師匠』として慕っている。





“政治って、一緒に仕事をしようとしている人が どういう人なのかを判断する時の感覚と、実は近いと思う”



—選挙に興味を持ったきっかけは？

子供の頃から、選挙のたびに両親に投票所へ連れて行かれました。外で待たされ、戻ってきた父に「誰に入れたの」と聞くと、「これは誰にも言わなくていい。誰に投票したかは秘密にしておいていいものなんだよ」と教わりました。また、選挙公報が配られたり街頭演説（以下、「街宣」）というものがあつたりといった基礎的なことも、両親から教わりました。

2010年、僕は脳梗塞で入院したのを機に、自分の体のことを含めてどう生きていくかを真剣に考えざるを得なくなりました。こういうことは人生にそう何度もないだろうと思っていたところに翌年<3.11>が起きて、いよいよ何があるかわからないぞとなった時、自分の日常がどう成り立っているのか、誰が物事を決定しているのかといった仕組みについて実はあまり知らないことに気づいた。それで、地元の街

宣などを見に行くようになったりして、かなり意識が変わりました。

その後、プチ鹿島さんとトーク番組を始めてからは、社会や政治の話を毎週取り上げるようになり、選挙戦も見に行くようになりました。2021年の衆院選挙の時、大島新監督が映画でも取り上げた「香川1区」の選挙を見に行ったらそれはすごく面白かった。その後二人で、番組の取材として色々と出向くようになりました。

—選挙や政治に対して、取材を始める前と今で考え方に変化は？

選挙や政治をめぐる言説というのが報道も含めてちょっと特殊ですね。日常と離れてしまっていて、この距離感を不思議だなと考えるようになりました。政治って、一緒に仕事をしようとしている人がどういう人なのかを判断する時や、友達と遊ぶ際に「コイツどういうやつなんだっけ」と考えたりする時の感覚と、実は近いと思うんです。この人はこういう時にこういうことを言うけれど案外話半分だな、逆に喋りは下手だけれどちゃんと考えてるからこそゆっくりなのかななど、街宣の現場に行ってみてくるものは結構あります。

原体験としては、僕は10歳までロンドンに住んでいたのですが、当時（1980年代）のロンドンはみんな政治の話をしていました。北アイルランドのシン・フェイン党とかスコットランド独立の話など、ニュースも含めて日常会話に浸透していて、自分と違う考えの人たちと言い争ったりしながらも一緒に暮らす光景を見ていた。それと比べると、日本はだいぶ大人しいなという印象でした。街宣が盛り上がり盛上がるほど日常では全然こういう話をしないよなと逆に際立ってきたり、そうした変化がわかるようになってきました。

—選挙をお祭りやフェスと表現するようになったのは？

選挙カーに乗った各候補が次々とやって来て喋っていくというのは、ミュージシャンが出て来て持ち歌のサビを聴かせるみたいな感じがする。しかも、ある人が駅前の南口でやっているかと思ったら北口では別の人がやっている、つまりあちこちがステージで、人気のある候補もいればそうじゃない候補もいて、喋っている内容や聴衆の数も違ったりする。この状況の全体を、僕らの参加ハードルも含めて、お祭りやフェスに例えて話すとうわかりやすいと思ったんです。

そして、そのお祭りの参加権は有権者としての僕らが持っていて、さらにはお祭りの主催者は僕らである。自分たちで盛り上げて、片付けて、次の祭りの計画をしていくという風に捉えると、単に祭りに遊び（投票）に行くのとは違い、関わり方も変わってくるはずだと。

僕は、日本は民主社会になっていない、ちゃんとした民主主義を獲得できていないという問題意識があるので、自分たちが主権者だという視点を持つためにも祭りに例えて説明していくのがいいと考えています。まずは参加する。そしてその参加した後、自分たちがどういう祭りをやったかによって結果も変わってくるということを認識する。自分も含めて、レベルアップするための考え方としてはいいかなと思ってますね。

—取材の中で大切にしていることは？

街宣はなるべく全部聞いて、チラシも受け取る。候補者には、車から降りて地元の有権者たちとグータッチをしたり写真を一緒に撮ったりという一連の動きがあるので、一旦それは見守る。そして、次に移動するまでに時間があれば、選挙戦の邪魔にならない範囲でちょっと質問をする。それはマイルールとして決めています。票にならなそうな人の話は聞かない候補者もいれば、集まった人の質問に全部答える

候補者もいる。聴衆と話せるようにスケジュールに余裕を作ってくるかどうかは候補者次第。こういう行為自体、選択するための検討材料になってきます。さらに、支持者やスタッフがどういう風に手伝っているか、そうした動きも見ようにはしています。

—若い読者に向けてメッセージを。

僕自身は20歳の時から選挙に行っていますが、自分が下した決断の正解や不正解は、後になってから見えてくるものだと思います。だから次の選挙で修正ができるんです。前は考えが浅かったから次はちゃんとやろうと思えるチャンスがある。でも、その「次」を呼び込むためには参加することがすごく大事で、例えば今の子どもたちが10年後に選挙に参加できるかどうかということも、今の自分たちがちゃんと選挙制度を支えていないと成立しなくなる。極端ですが、選挙というものが昔はあって、みたいな話になってもおかしくないわけですからね。

誰に入れていいかわからないということも聞きますが、それに対しては2024年のアメリカ大統領選の時にニューヨークで取材した会社経営者が言っていたことが印象に残っています。曰く、「会社で人を雇う時、絶対に面接をする。そして、面接に来た全員の話を聞いて、この人に仕事を任せようか判断して誰かを雇う。雇った結果、全然働かないということもあり、間違えた、騙されたと思うこともある。選挙もこれと同じで、選ぶ人はあくまで自分の代理人。自分の代わりに仕事をしてくれる人を選ぶのだから、面接もしないで選ぶなんてことはない」。僕は本当にその通りだなと思います。面接しても間違えることはあるけれど、面接もしないで誰かを雇うことはない。だから、わからない場合は取り敢えず会って話を聞く、これまで話した流れでいえば、まずは街宣に行ってみるのがいいと思います。

ダースレイダー流 / 選挙や政治を もっと 気楽に感じるために



日常と離れていて自分事として考えにくい選挙や政治も、視点や立ち位置を変えることで見えてくる景色も違って来るはず——
その方法を伝える達人・ダースレイダーさんの言葉に、耳を傾けてみてはいかがでしょうか。



身近なことに置き換えて考えてみる



例えば3人でご飯を食べに行こうとなる。中華がいい、イタリアンがいい、いや定食屋にしよう、と意見が分かれる。俺は●●以外認めないぞという圧の強いやつがいたり、逆に気弱でものを言えないやつがいたり、あるいは、この中に人に言えない病気を抱えているやつがいることを実は自分だけ知っていたり。こういうことが起こってくる時、どう決めるのがいいかと考えるのは普通のこと。予算や税金の話も同じで、専門用語が出てきて難しいけれど、サークルでお金を集めてユニフォームを買う時、部員の人数や予算に応じてどこに発注すればいいかと考えるように、似たことを日常的に経験しているはず。選挙は、これを国や自治体レベルで代わりにやってくれる人を選ぶという話。声の大きいタイプか、周囲に気を回してくれるタイプか、金銭感覚が細かいしっかり者か。それによって結果は変わってくると思う。ご飯を食べに行く時はノリで決める方が楽しいかもしれないけれど、大きな買い物をする時はお金のことをちゃんと考える方がいい。こういう風に、ケースバイケースで最適な人は変わってくると思う。そうすると、どのパターンに当てはめてもこの人なら大丈夫、という人は絶対にいないと次第にわかってくる。ならば、今はこのことはちゃんとやって欲しいと、優先順位を自分で決めていくことが大事になってくる。

どうせなら楽しくなるように考えてみる

人間は、生存するために自然と群れをなして社会を作っていく生き物。で、みんなで一緒に暮らしていかざるを得ない以上うまくやっていくしかない、その方法について考えたりすることは楽しい方がいいし、ワクワクする方がいい。
今、分断ということが言われているけれど、それは自分がしたいことに関して他人と意見が合わない時に生じるもの。でも、自分も社会の構成員の一人だから、意見が合わない人でも一緒にいるという現実はどうしようもなくある。あの人たちと一緒にいるのは嫌だな、ストレス感じるなと思った時、無理してでも一緒にいるのか、それとも一緒にいないようにするための別の方法を考えるのか。物事をポジティブに考えていくことはできるはずなので、向き合わなきゃいけない問題があるなら、その過程も楽しく、面白いものは何かないかと探っていくことこそ、人生なんじゃないかなという気がする。



意外とカンタン?? 投票の方法について

思っているより投票って難しくないんです。そんな投票の手順についてご紹介します。

～投票するまでの5ステップ～



1. 杉並区から届く選挙のお知らせを持って、投票所に行くこう!

選挙が近づくと、皆の所に選挙のお知らせという投票所のご案内が届きます。そのお知らせにどの投票所にいけばよいか書いてあるので、指定の投票所に向かいましょう。



2. まずは名簿対照係へ

投票所についたら、まずは名簿対照係へ向かいます。この係で、投票資格があるかどうかの確認をします。選挙のお知らせがあればすぐに終わります!



3. 投票用紙をゲット!

名簿対照係での確認が終わった後、用紙交付係から投票用紙を受け取ります。投票用紙を受け取ったら、投票先を記入するために記載台へ移動します。



4. 投票先を書こう。

記載台についたら、自分が投票したいと思う候補者や政党等を書こう!



5. 投票箱に投票用紙を

最後に投票用紙を投票箱に入れて、投票完了です。



投票自体は5～10分で終わります。
サクッと終わるし、全然大変じゃない
ですよ?ぜひ投票にお越しください!

予定がある時は 期日前投票を活用しよう!!



投票には行きたい、そうは言っても友達との予定が入っていたりして、当日はいけなないかもしれない。そんな時は期日前投票制度が便利です。投票日の前に、区内各所にある期日前投票所で投票することができます。朝8時半から夜8時まで開いているので、自分の予定に合わせて利用してみてください。



若年投票立会人 募集中!



杉並区選挙管理委員会では、若い世代の方にもっと選挙を身近に感じてもらうため、投票に立ち会っていただける方(若年投票立会人)を募集しています。興味のある方は、是非ご応募ください。(詳細は別途お知らせします。)

応募方法

以下のQRコードから申し込むことができます。

選挙サポーター希望申込フォーム



投票立会人のほか、興味のある啓発活動の希望申込もできます。
「選挙サポーター」の紹介は、本紙背表紙をご覧ください。

参加者募集中! /

あなたも選挙サポーターに なってみませんか?



あなたの参加をお待ちしています。

杉並区選挙管理委員会では、若い世代の方に政治や選挙に対する関心を高めていただくとともに、もっと選挙を身近なものに感じてもらうため、選挙サポーターになっていただける方を募集しています。



詳しくはこちらから

5			○△×選挙 投票日○月×日
6			



あした選挙行く? 第5号

令和7年3月

企画・発行：杉並区選挙管理委員会

協力：杉並区明るい選挙推進協議会・杉並区明るい選挙推進委員・杉並区選挙サポーター・株式会社吉田正樹事務所

制作：NPO 法人チューニング・フォー・ザ・フューチャー

◎問合せ先

杉並区選挙管理委員会事務局

〒166-8570 東京都杉並区阿佐谷南1丁目15番1号 TEL：03-3312-2111